

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

産構審・中環審 第43回 合同会議

報告書とりまとめ終了、報告書に沿った今後の対応を整理



平成27年9月14日、産構審・中環審 第43回 合同会議が開催されました。これまで議論された内容がまとめられた「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書(以下「報告書」)」を中心に討議されました。

審議会の中で河村代表からは以下の発言がございました。

「中国経済の急減速により、中国国営企業の高炉が鉄鋼製品の減産ができず、安い中国製の鉄鋼製品が世界中に出回っている。これにより、日本の鉄スクラップが行き場を失い、リサイクル法施行前よりもスクラップの価格が暴落している。

今後、廃車価格の急落により、大量の車が海外へ流出する恐れが強い。解体業界だけでは対処しきれない問題であり、リサイクル法に関わる業界が一体となってこの問題について取り組み、低年式車の輸出についてセフティーガードを設けるなどの検討をお願いしたい。」

永田座長からも、自動車リサイクル制度をきちんと維持していくために、今後とも考えていく必要がある旨の発言がありました。今回で同制度の評価・検討に関するとりまとめが終了し、今後は報告書に挙げられている課題について各取組主体が対応し、1年後にその結果を報告する流れになります。

(次ページに続く)→

目次

巻頭言	… 1
トピックス	
産構審・中環審合同会議	… 1-3
台風第18号等による災害	… 4
自動車リサイクル士制度	… 4
ブロック会議	… 5
東北ブロック合同交流会	… 6
ART業務委託先変更	… 6
鉄スクラップ最新情報	… 7
行事予定・お知らせ	… 8
編集後記	… 8

巻頭言

8月2日(日)、第2回APIリサイクル祭りを開催しました。昨年は雨でしたが、今年は天気も良く300名の方が来場されました。当日は、リサイクル部品の取り外しやエアバッグの展開などを行いました。縁日では焼きそば・肉巻きおにぎり・かき氷を作って無料で配布し、会議室では地元のキャラクターによるショーを行いました。子供たちはわくわくしながら解体ショーを見ていました。来場者の中には、昨年も来られた方やお孫さんと一緒に来られた方も多数おられました。楽しかったとの声もいただき、開催して非常に良かったです。リサイクルの現場を見てもらえることは必要だと感じました。来年も開催出来るようにしたいです。

(広報部会 伊地知 志郎)

「報告書」を受けた今後の対応について

「報告書」の第3章「自動車リサイクル制度の『あるべき姿』の実現に向けた課題と具体的取組」に記載のある主な項目について、今後、以下のとおり対応を進めることになりました。

1. 3Rの推進・質の向上に向けた検討・取組の実施

「3Rの推進・質の向上」に関する項目について、国が中心となって有識者・関係者と連携しつつ検討を実施し、取組を進める。

【主な検討項目】

- ・ 環境配慮設計の推進とその活用
- ・ 再生資源の需要と供給の拡大
- ・ 自動車リサイクル全体の最適化を通じたリサイクルの質の向上
- ・ リユース・リサイクルの推進・質の向上の進捗状況の把握・評価
- ・ 自動車に含まれる有害物質の削減 等

2. 情報発信・共有の在り方等に関する検討・取組の実施

制度において、ユーザーはリサイクル料金を負担し、使用済自動車を引き渡す重要な役割を果たしている。このような背景のもと、報告書においては、ユーザーへの情報発信等の取組に関して多くの指摘があった。これを踏まえ、JARCが中心となってユーザー、関係事業者、自動車製造業者等、自治体、国に代表される関係主体が連携して、制度における役割を改めて確認するとともに、情報発信・共有等の在り方について検討を実施し、取組を進める。

【主な検討項目】

- ・ 環境配慮設計又は再生資源活用が進んだ自動車のユーザー選択の促進
- ・ リユース・リビルド部品等のユーザー選択の促進
- ・ リサイクル料金、使用済自動車の価値等に関するユーザーの更なる理解を通じた適正処理の推進
- ・ JARC が管理する使用済自動車の再資源化状況等のデータの活用・発信 等

上記の報告書に基づき、「取組・検討事項」「取組主体」「今後の進め方」については、下記に詳細が記載されています。

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki_recycle/car_wg/pdf/043_03_03.pdf

その中で解体業者が関わってくる箇所を抜粋しました。

取組・検討事項	取組主体	今後の進め方
解体業者と自動車製造業者等の相互コミュニケーションとそのフォローアップ	国、解体業者、自動車製造業者等	関係主体が行った取組について、進捗状況を合同会議に報告。
環境配慮設計の進捗評価・活用方法の検討、ユーザー選択促進	国、解体業者、破砕業者、自動車製造業者等	国が中心となって、有識者・関係者と連携しつつ検討を実施し、進捗状況を合同会議に報告。
再生資源活用の課題の整理と促進、利活用・流通状況の確認	国、解体業者、自動車製造業者等	国が中心となって、有識者・関係者と連携しつつ検討を実施。進捗状況を合同会議に報告。
リユース・リビルド部品に関する利用実態把握等とユーザー選択を容易にする状況構築	国、解体業者、JARC等	補修用リサイクル部品の規格化については、解体業者が中心となって継続して検討。進捗状況を合同会議に報告。情報発信の取組については、JARCが中心となって主要関係主体と連携を図りつつ、情報発信に係る検討を実施。進捗状況を合同会議に報告。
リサイクルの質の向上等に係るベストプラクティス取りまとめと普及促進	国、解体業者、破砕業者等	国において、ベストプラクティスについて取りまとめる。その結果及び普及促進の状況を合同会議に報告。
全部再資源化手法の拡大方策検討とリサイクルプロセス最適化の推進	国、解体業者、破砕業者、自動車製造業者等	国が中心となって、有識者・関係者と連携しつつ検討を実施。進捗状況を合同会議に報告。
目標・指標及び評価方法に関する検討	国、解体業者、破砕業者、自動車製造業者等	国が中心となって、有識者・関係者と連携しつつ検討を実施。制度変更を伴う場合には、合同会議において審議。進捗状況を合同会議に報告。

(次ページに続く)→

パブリックコメントで寄せられた意見の概要とそれに対する経済産業省・環境省の考え方が、下記のページでご覧になれます。

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki_recycle/car_wg/pdf/043_03_01.pdf

ここではその中から主だったものを抜粋してご紹介します。

報告書（案）の該当箇所／第1章 3.（5）、全体

意見：中古車輸出還付金の一部は廃止し、わが国の適正処理・リサイクルの質の確保のため、一定量の使用済自動車は国内で処理・リサイクルすべきである。 [1件]

〈上記意見に対する考え方〉

自動車リサイクル法では、自動車が使用済自動車となった場合に必要となるリサイクル料金について、再資源化預託金等として自動車ユーザーに預託を義務づけています。したがって、あくまでリサイクルの目的で預託されたものである以上、中古車輸出により国内で使用済自動車としてリサイクルされないことが確実となった自動車に係るリサイクル料金は、それを預託した当該自動車の所有者に返還すべきものと考えられます。

報告書（案）の該当箇所／第2章 あるべき姿

意見：Car-To-Carリサイクルを実現するために、中古車輸出に一定の条件を設定すべきではないか。 [5件]

〈上記意見に対する考え方〉

中古車輸出については、我が国から輸出される中古車が輸出先国において引き続き自動車として使用されることで、国際的な製品リユースが促進されており、自動車リサイクル法の目的である「資源の有効な利用の確保」に反するものとは観念されないため、中古車輸出に何らかの規制を加えることは考えておりません。

報告書（案）の該当箇所／第3章 1.（2）

意見：解体業として引取報告を終了した段階で重量税還付の手続きが行えるよう変更をお願いしたい。 [1件]

〈上記意見に対する考え方〉

道路運送車両法における永久抹消登録は、自動車が消滅または解体等により、物理的に存在しなくなった場合等に行うべきものであり、車両として存在する引取段階で、永久抹消を可能にすることは、不相当と考えます。一方、重量税の還付制度については、その起算日が一時抹消または引取業における引取報告のいずれかの遅い日付とされており、還付される金額が法定処理期間に影響されることはありません。

報告書（案）の該当箇所／その他

意見：事故車の残存する未展開SRS類の有無を確認することが義務づけられていますが未展開のSRSが無く引取報告時にSRS装備を「無」にした場合の確認等に関わる手間について作業工賃等の支払いを検討して下さい。 [1件]

〈上記意見に対する考え方〉

自動車リサイクル法においては使用済自動車の確実な処理を確保する等の観点から適切な移動報告の実施が義務づけられ、全ての関係事業者にご協力いただいているところですが、実際に業を行うにあたっては、使用済自動車、解体自動車、取り外した有用部品・金属等の売却による収入等により、御指摘の費用についても賄うことが可能であると考えております。

報告書（案）の該当箇所／その他

意見：引取工程・解体工程にてSRSリコール情報が閲覧できるようになっておりますが、引渡工程によってはフロン工程から作業に入ることがありますので、作業員の安全確保の観点からもフロン工程でも閲覧できるようにして下さい。 [1件]

〈上記意見に対する考え方〉

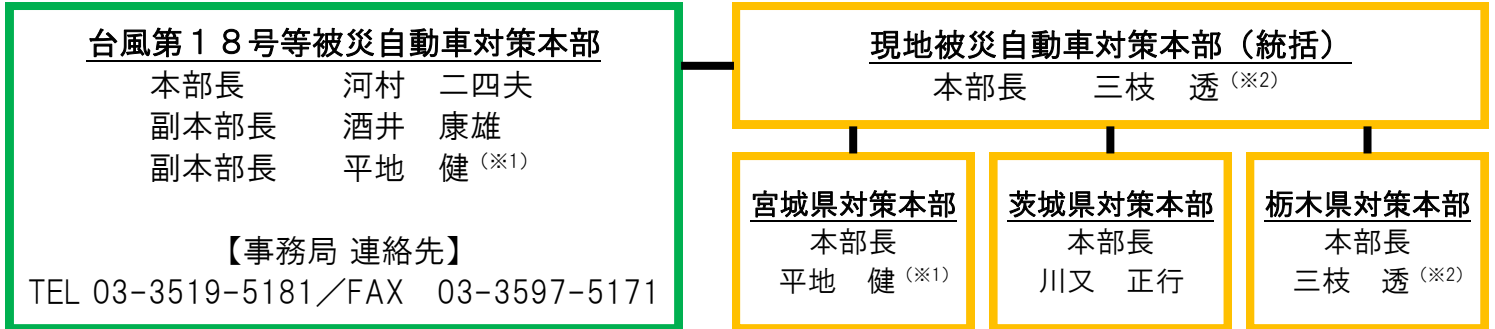
報告書においては、JARCにおける関係事業者等との意見交換等を通じたシステム改善ニーズの把握が課題として示されており、実際の自動車リサイクルの実施状況等をよく踏まえて、リサイクルシステムの効率化・安定化を進めてまいります。

台風第18号等による災害に関するお知らせ

このたび、台風第18号による大雨等で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。
本災害を受け、ELV機構より、以下の2点をお知らせいたします。 (代表理事 河村 二四夫)

1. 「台風第18号等被災自動車対策本部」の設置

ELV機構では、以下のとおり「台風第18号等被災自動車対策本部」を設置しました。茨城県および宮城県のご担当者の方々へ対策本部の設置をお伝えするとともに、要請があれば被災車両の撤去などの支援を近県会員事業所の協力により実施する旨を通知しています。 [※＝兼任]



2. 冠水車両のエアバッグ類処理に関する注意とお願い

会員の皆様におかれましては、冠水車両のエアバッグ類処理にご注意くださいますようお願いいたします。台風や豪雨等により冠水した車両を車上作動処理すると、インフレーター等が破裂したり、通電後しばらく経ってから作動するなど、異常展開することが報告されています。冠水した車両および冠水した可能性のある車両につきましては、必ず取外回収を行ってください。

自動車リサイクル士制度に関するお知らせ

以前ニュースレターでも取り上げたとおり、現在、リサイクル技術部会を中心に自動車リサイクル士制度の見直しが進められております。現在の見直し状況について、以下の2点をお伝えいたします。

1. 国・関係団体への説明

8月27日、見直し内容をとりまとめて国・関係団体への説明を行いました。

- 説明先(国) : 経済産業省、環境省
- 説明先(関係団体) : 日本自動車工業会、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構

主な内容

- ・**制度の方向性＝優良事業者の育成(対象:個人／受講者)**
→ 将来的には、優良事業者認定(対象:会社)における要件の一部としての活用を目指す。
- ・**有効期限＝2年から5年に変更**
→ 有効期限2年として受講された方(平成25年度・平成26年度受講者)に対しては、今年度および来年度で移行措置を行う。

説明の結果、「過去の受講者のことやELV機構で取り組むうえでの継続性を考えた変更だと思う」といった意見が出るなど、見直し内容についてのご理解をいただきました。

2. ワーキンググループ(WG)の発足

リサイクル技術部会では、自動車リサイクル士制度の詳細に関する検討を進めるにあたって、「カリキュラム」「運営」「案内・広報」「要綱」といった検討項目別にWGを発足しました。今後は、これらのWGを中心にさらなる検討が行われていく予定です。(※決定内容は後日あらためて過去の受講者の皆様、会員の皆様へご案内)

ブロック会議 開催報告

8月後半から9月にかけて、各地でブロック会議が開催されました。各ブロック会議について、以下のとおり報告します。(関東ブロック会議については、三枝ブロック長よりご寄稿いただきました)

「関東ブロック会議、開催」

関東ブロック ブロック長 三枝 透



8月27日、ELV機構本部にて「関東ブロック会議」が開催されました。出席者は、関東各県の地域団体長を主に7名です。今まで関東ブロックは、本部が東京にあり、ブロック内会員に理事や各部長が多く歴任していることもあり、ブロック会議開催の必要性はそれほど感じず、活発な会議等は行っていませんでした。

しかし、最近のELV機構の活発な活動を、すべての地域団体に正確に配信するためには、このままの形態ではいけないと感じ、年4回の関東ブロック会議開催(内1回は交流会)を決定しました。

この会議の前日に開催された「平成27年度 第2回 ブロック長会議」の資料をもとに、本部活動報告、地域の情報交換、今後の会議や交流会のあり方について、活発に意見交換しました。

各社の利益を各社で考えることは当然です。しかし、地域・組織で活動すべきことは、地域・組織で考えていくことが必要です。有意義なELV機構の活動を、地域団体を通して会員に正確に情報発信することで、行政や関係団体にELV機構の存在意義をアピールしていくことが、今後、私たち自動車解体業者が生き残っていくために、とても重要であると考えています。

各ブロック会議 報告

[主な内容]

■本部活動報告

自動車リサイクル士／共同出荷事業／JIS開発事業(規格化)／産構審中環審合同会議

■各地域団体報告・各社報告

……など

9月4日 中部・北陸ブロック会議



開催日時

平成27年9月4日(金)9:00-12:00

開催場所

ウインクあいち/愛知県名古屋

参加者

11名

各地域団体長、長谷川副代表理事、
奥野事務局長

9月19日 九州ブロック会議



開催日時

平成27年9月19日(土)13:00-16:00

開催場所

サンライフホテル2・3/福岡県福岡市

参加者

6名

各地域団体長

9月25日 沖縄ブロック会議



開催日時

平成27年9月25日(金)18:00-22:00

開催場所

沖縄市農民研修センター/沖縄県沖縄市

参加者

18名

沖縄ブロック内会員

東北ブロック地域団体交流会、開催



9月25日(金)から26日(土)にかけて、「日本ELVリサイクル機構 第4回 東北ブロック地域団体交流会」が、宮城県仙台 秋保温泉にて開催されました。この交流会は、東北六県のリサイクル業者が一同に集い、情報交換や親睦を深めることを目的として、年に一度、開催されています。今年も25名の参加者に、来賓として経済産業省製造産業局自動車課より相沢一弘課長補佐(写真上)、また日本ELVリサイクル機構より河村代表理事が参加されました。第一部は、相沢課長補佐、河村代表理事と青森自動車リサイクル協同組合の安東元吉理事長による基調講演がありました。安東理事長の講演「ELVリサイクル業界を取り巻く環境変化」では、低迷するスクラップ業界の実情を分かりやすく解説され、参加者の関心を集めていました。その後、五つのグループに別れ、現在の経営状況をテーマとしたグループ討論が行われました。テーマは「近況の経営環境はどうであるか？それに対する打開策は何か？」「今後の方向性をどのように考えるか？」といった、現在のリサイクル業者にとっては、非常に興味深い内容であり、参加者は真剣に意見交換をしていました。現在の市況に対し、際だった妙案はないものの、現状では堅実な経営で耐えてゆくしかないといった見解は、各グループともに概ね共通するところでした。第二部の懇親会では、不景気風を追い払うような盛り上がりを見せ、深夜遅くまで親睦を深めていました。

■ ART・自動車再資源化協力機構より情報提供 ■

ART業務委託先変更のお知らせ

ART・自動車再資源化協力機構より、ART業務委託先変更について情報提供がありました。

ART業務委託先変更のお知らせ

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
日頃は、自動車リサイクル法の適正運用にご協力賜り誠にありがとうございます。

さて、私共「自動車破碎残さリサイクル促進チーム(ART)」は、平成28年4月よりART業務委託先を三井物産株式会社(再委託先：三井物産メタルズ株式会社)から一般社団法人自動車再資源化協力機構へ変更することとなりましたのでお知らせいたします。

なお、運用切り替わりに関する詳細については、別途ご案内いたします。
つきましては、今後とも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもちましてご挨拶申し上げます。

敬具

平成27年10月吉日

ART運営委員長(日産自動車株式会社)

吉永 広芳

一般社団法人自動車再資源化協力機構 代表理事

阿部 知和

*「ART」とは、自動車リサイクル法に従って、自動車メーカーが引き取り、リサイクルすることが義務付けられる特定再資源化物品のうち、シュレッダーダスト(自動車破碎残さ)について、そのリサイクルを適正、円滑かつ効率的に実施する仕組みの重要な一部として13社の自動車メーカー等が構築したチームである。

■ 9月第3週(18日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供/日刊市況通信社]



9月18日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	16,500 ~ 17,000	弱含み様子見
	南関東	16,500 ~ 17,000	弱含み様子見
名古屋		16,000 ~ 16,500	弱含み様子見
関西	大阪	16,500 ~ 17,500	弱含み様子見
	姫路	17,500 ~ 18,000	弱含み様子見

トルコ向け鉄スクラップ相場は依然弱基調 欧HMS1&2(80:20)、CFR200ドル弱に

トルコ向けの鉄スクラップ相場は依然として弱基調が続いている。9月前半に安値の成約が続いたことからジリ安の展開となり、8月中旬のピークからはおよそ35ドルの下落となっている。

現地9月17日付のHMS1&2(80:20)の中心値は、欧州玉でCFR200ドル弱、米国玉でCFR205ドル弱を付けている。特に欧州玉はCFR195ドルの成約が出ており、実質的に欧州玉の相場はCFR200ドルを下回っている状況だ。

米国玉の新規成約の一例では、11日付の複数品種契約でHMS1&2(80:20)がCFR204ドル、シュレッダーがCFR209ドル、ボーナス(HS相当)がCFR214ドルで決まっている。総量は45,000ト。

値下がり背景には、安値の中国産ビレットがある。現地では、近いうちに中国産ビレットが1トあたりFOB260ドルどころにまで下落する、という予測の声があり、鉄スクラップの需要が縮小するひとつの要因となっている。

【関東地区】浜値の安値修正広がり「下げ一服感」

関東地区の鉄スクラップ相場は、浜値の安値修正が広がり、電炉買値に近づいたことから、全体的に「下げ一服感」が広がっている。ただ、電炉生産の低迷や輸出市場の不振など弱気材料は横たわったままで、先安見通しは拭えない環境。H2浜値は1トあたり16,000~6,500円中心。直近安値からは1,000円どころの修正上げとなった。H2炉前実勢価格は16,500~7,000円中心。入荷減から一部で修正上げも見られる。大勢は様子見商状だ。

【東海地区】電炉メーカー5連休の生産予定筋少なく様子見気配

名古屋電炉は、月中旬前後にさらに500~1,000円がたの追加下げを実施した。その後は今年最安値のまま様子見気配でシルバーウィーク入りとなる公算が大きい。H2炉前実勢価格は16,000~6,500円中心。鉄鋼需要の不振から、電炉間には5連休中の生産を予定するところは少なく、丸棒筋の一部は土曜日夜間のみ生産に留まるもよう。9月の生産量は8月比で減少する見込みの電炉が半数近くに達し、スクラップ消費は伸び悩んでいる。

【関西地区】需給環境改善せず弱含み様子見気配

大阪地区の鉄スクラップ市況は、弱含み様子見で連休明けとなる見通しだ。関東湾岸浜値の値戻しを受け、価格面での極端な不安は後退しつつある。しかし電炉各社は在庫レベルが高いままシルバーウィークを迎え、連休明けには9月末に向けた在庫調整を行うという話も聞かれる。このため需給環境は改善に向かう気配がない。H2炉前実勢価格は16,500~7,000円(一部上値17,500円)。姫路地区のH2炉前実勢価格は17,500~8,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月18日午後時点のもの)

行事予定

10月の主な予定

- | | |
|---|--|
| 10月 5日(月)
◇ 自動車リサイクル士制度
第2回 運営WG | 10月15日(木)
◇ 第3回 三役会 |
| 10月 6日(火)
◇ 自動車リサイクル士制度
第2回 案内・広報WG | 10月16日(金)
◇ JIS開発事業
第3回 原案作成WG |
| 10月10日(土)
◇ 中国・四国ブロック会議 | 10月19日(月)
◇ 自動車リサイクル士制度
第2回 カリキュラムWG |
| 10月13日(火)
◇ 第7回 広報部会 | 10月24日(土)
◇ 関東ブロック交流会 |



お知らせ

■会員数(2015年9月時点)

総数 597社 / 会員 571社、賛助会員 26社

■自動車リサイクル士合格実績(2015年9月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

■ホームページに関するお知らせ

ELV機構のホームページでは、本部の活動報告を毎週掲載しています。ぜひ確認してみてください。

★ELV機構ホームページ <http://www.elv.or.jp/>



ページ左側メニューの下のこのバナーをクリック!

編集後記

台風18号による豪雨は、鬼怒川の堤防決壊による大氾濫をはじめ、大きな被害を東日本にもたらしました。尋常ではない災害の様相はテレビをはじめとする各メディアで報道され、皆様の記憶にも新しいことかと思えます。先日のシルバークウィークでは、全国から2千人ものボランティアの皆さんが被災地へ駆け付け、復旧活動へ向けて汗を流したとのこと。空き巣や盗難といった心ない輩に心を痛めていた傍ら、人間が本来持つ性善を感じることができたのは、せめてもの救いではなかったでしょうか。▼日本ELVリサイクル機構では、被災車両の撤去などの支援をすべく「台風18号等被災自動車対策本部」を設置しました。現地被災自動車対策本部長として、関東ブロック長である三枝透氏が大役を担うこととなりました。被害に遭われた方々のために、少しでもお役に立てることが出来れば業界としても嬉しいことです。▼さらに気になることは鉄スクラップ相場の動向です。未曾有ともいえる市況に不安が募ります。いまは地に足を付けた堅実な経営で乗り切ろうではありませんか。

(広報部会 部会長 永田 則男)